

## 【抄 録】



### Biomimetic Approach in Direct Restorations

天然歯模倣から見えてくる

ダイレクトボンディングのボーダーライン  
ークラウンにする前にやるべき事ー

青島デンタルオフィス

青 島 徹 児

近年コンポジットレジン（CR）やボンディングシステムは飛躍的な向上を遂げ、審美的かつ自然な仕上がりになるよう CR の色調や光透過性、光の屈折率などを天然歯に近似するよう開発が進んでいる。しかし CR の直接充填法がダイレクトボンディングと名を変え注目されるようになって10数年がたとうとしているが、その普及率はインプラントに遠く及ばないのが現状である。その主たる原因は、ダイレクトボンディングという治法すべての工程において術者本人が行わなければならない、術後の結果は術者の技量に100%左右されることによるものと考ええる。自身の技量の向上こそが術者の自信に繋がり術後の患者満足に繋がる。つまり患者満足が審美的かつ長期的維持安定であると考えれば、天然歯の解剖学的形態や構造を観察・理解し模倣することが自身の技量を向上させる近道であり、術後の審美と機能の両立とその長期的維持安定が患者満足へと繋がると考える。

今回は白歯を中心に「Biomimetic Approach in Direct Restorations」と題し、天然歯の解剖学的形態や構造を模倣した laminar technique として mono\_laminar technique、bi\_laminar technique などの詳細を紹介し、どのように Direct Restoration によって天然歯を模倣していくのかをお話したい。またその中から長期的維持安定のための天然歯の構造力学的解釈及び補綴的視点から見たダイレクトボンディングのボーダーを探り、クラウンにする前に何をすべきかお話したいと思う。

### 青 島 徹 児 (あおしま てつじ)

#### <略 歴>

1995年 日本大学歯学部卒業

1995年 同歯科補綴学教室Ⅲ講座入局

1998年 都内診療所にて修行

2002年 入間市にて青島デンタルオフィス開業

#### <所属学会・資格等>

日本歯科審美学会会員

日本顎咬合学会会員及び認定医

American Academy of Cosmetic Dentistry 会員

Leading Dentists Association (LDA) 会員

Esthetic Explorers 副会長

2011年より Bio-Emulation メンバー